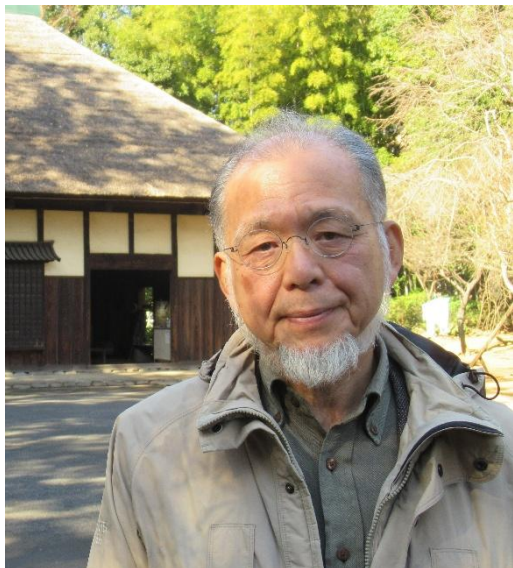


【基調講演】

<<テーマ>>

民俗学と現代社会、そして資料学 —民具・民俗博物館の視角から—



■講師

佐野賢治氏

1950 年静岡県生まれ。東京教育大学文学部、筑波大学歴史人類学研究科修了後、愛知大学・筑波大学教員を経て、神奈川大学歴史民俗資料学研究科教授、(公財)農村文化研究所長、日本民具学会長、野外文化教育学会副会長を務め、比較民俗研究会・つくば常民大学を主宰。日本学術会議連携会員、文化庁文化財専門委員、神奈川大学日本常民文化研究所長、日本ユネスコ協会連盟未来遺産委員会委員などを歴任。文学博士。神奈川大学名誉教授、中国・敦煌研究院特聘教授。

〈佐野賢治氏より〉

本年5月、『民俗学と現代社会』を上梓。柳田国男の思想の再定位から民俗学を捉え直し、民具研究や民俗博物館の有り方から、“民俗知”の現代・国際的な意義付けを試みた。柳田は、民俗学は「現代科学」であるべきことを「郷土研究」に軸足を置くことともに同志に求めた(「現代科学ということ」1947)。

内容は序・学問救世—柳田の民俗学 1.郷土研究としての民俗学—地域民俗博物館設立の意義 2.民具とは何か—身体技法としての物質文化 3.民具・常民研究の先人たち—学問は人間研究の和 4.民俗博物館と現代社会—知的生産・未来志向の懸け橋 5.地域情報学の構築—福島県只見町インターネット・エコミュージアム構想 結・郷土研究から世界常民学へ—“福田”思想と世界平和

今回は主に渋沢敬三の言、「論文を書くのではない。資料を学界に提供するのである」(1937)を継承する日本常民文化研究所の足跡を改めて確認する。

日時：2026 年 9 月 26 日(土) 13:00~14:30

会場：神奈川大学みなとみらいキャンパス 4008 教室

会場は会員のみ(会員以外は ZOOM 公開。下記の方法で要申し込み)

【大会日程】(会員のみ)

11:30~12:00 総会

12:00~13:00 (昼休憩)

*午後 基調講演後に会員報告

《会員以外の基調講演 ZOOM 参加申し込み》
(申し込み:9月23日(水)まで。ID案内:25日)

次のいずれかで。(1)右の QR コードから、(2)研究会事務局へメールで。メールアドレス、氏名、所属、所在地を記入の上、直接メールをください。申し込み先アドレス: rms.research.society@gmail.com



◇主催:歴史民俗資料学研究会

◇問い合わせ・申し込み:研究会事務局 (rms.research.society@gmail.com)